

ナオちゃんと初恋 他

二十七回生 萩原 直大

『ナオちゃんと・』であって、『ナオちゃんの・』ではありません。あまり変わらないけど。

『初』って、『最初の』とか、『初めての』って意味でしょ。小学校の頃よく女の子が新しい服を着てくると、周りの子から、「おはっ！」って叩かれていましたね。

チコちゃんじゃないけど、「じゃあ『恋』ってなに？」。

ナオちゃんがもの心付いたころ、仲良しは近所の西脇さんのマーちゃん（26回生）や徳田さんのゴローちゃん（27回生）でした。それって初恋じゃないよね。ヤッパ、男の子の場合は、相手は女の子でないからね。

ナオちゃんの場合、その経験は幼稚園の年長組の

ときのことです。ナオちゃんは淡路から通っていた女の子を好きになり、その子がいるといつもイチビツて、気を曳こうとしたのです。

その他、前の日に一中の方の山で探ってきたドングリの中で、一番形がよく、色艶のいいのをあげたり、ときにはお姉ちゃんのオハジキの中から一番きれいで形のいいのを失敬し、プレゼントしたりしてたんですよ。まるで貢（みつぐ）君ですよ。

でもその子の住まいは淡路ですから、小学校は別でとくに名前も顔も忘れてしまいました。

それからずっと、いつも好きな女の子がいたのですが、クラスが変わると、相手も変わりました。それにしても随分たくさんの女の子を好きになったものです。いつも片想いでしたが。

だから、その恋はいつも『初恋』です。

「エ！なんで初恋？」。「だって、新しい服を着て行ったら必ず『お初！』って言うんでしょ、毎回。

それと一緒にじゃん」。23回目の初恋だってありでしょ！ その頃を思い出すと、その時の気持ちは決してただ単に「* *子ちゃんと一緒に遊びたい」ではなく、マーちゃんやゴローちゃんの場合とは違います。いつかナオちゃんのお嫁さんになってくれる女性を夢みて・・・

ナオちゃんもお爺さんになってわかったことがあります。それはナオちゃんの長女は結婚してもお嬢さん共々、親と一緒に暮らしました。親って勿論片方はナオちゃんです。お陰で男の子と女の子2人の孫と一緒に暮らした結果です。

その頃はもう退職し家に居ましたので、毎日3度の食事は孫と一緒にでした。だから彼らの成長過程の言動をすっかり観察することが出来たのです。

男の子と女の子は色々のめんで明らかに違います。男の子はそれが動物であれ乗り物であれ、動くものが好きで、女の子はお人形さんやごっこ遊びが

好きです。

座り方、膝の崩し方にも明らかな違いがあります。女の子の方が病気に對しても強いのに、活発さや激しい動きは男の子のもの。

生まれて間もなく、男の子には男性ホルモン、女の子には女性ホルモンが分泌され始め、子孫を残す準備が始まるのだそうです。人間も動物の一種として考えれば当然のことでしょう。

生きるために食べ、他の動物から食べられないように生き延び、そして子孫を残す。その子孫も他の動物から食べられないように守る。そのためにのみ、存在するのですものね、我々は。

ナオちゃんが女の子に秘かな想いを抱いたのも、本能のなせる業？ 将来の結婚相手を探していたの？ 本人がそのように意識したかは別として、きっとそうなのでしょう。だってナオちゃんの孫も、最初の頃は「お母さんと結婚する」なんて言ってい

たのが、その内に「* * *ちゃんをお嫁さんに」なんて少し顔を赤らめて言っていました。

でも可哀想なナオちゃんは想いの大きさに比し、一向持てませんでした。告白しないからでしょう？ 女の子からの誘いを待っていたのでは：ネ。

中学時代にこんな経験があります。チョッピリ好きな女の子から

「アンタは私が好きなのでしょ！」と突然言われ、ナオちゃん思わず心にもない次のような言葉が

「アホカ！ 何でオマエみたいなブスを！」と。

どれほど深く乙女心を傷付けたことでしょう。

あゝもったいない。

その癖、一番下のお姉ちゃん（24回生）に

「なんでオしもてへんのかな？」と聞きました。するとお姉ちゃんの力強い答え。

「心配せんでもええ。高校ぐらいになったらもてるから」と。でも現実はその甘いものではなく。

そのうちにナオちゃん居直って『オレは能動の人間や！ 受動とちゃうで！ オレが惚れるんであって、惚れられる。なんてbe動詞プラス過去分詞形やないで！ オレの人生はオレが切り開くんや』と。これを世の中一般に、負け惜しみというんですね。

でもまあ年ごろには、ちゃんと女性に結婚を申し込み、受諾してもらい、3人の子の父親となり、6人の孫のオジイちゃんとなりました。

古希をむかえたころでしょうか。ナオちゃんが所属する福祉介護系ボランティア団体でのことです。だいたいこの種の組織は女性上位であり、圧倒的に人数も多いものです。でもなぜかナオちゃんが関わると組織は人数だけは五分々です。

そんなある日、女性陣数人と雑談中 突如 一人の女性が

「もし今度、結婚し直すとしたら、ナオちゃんみ

たいな人がいい」と言いました。あと数人の女性も同意しました。ナオちゃんすかさず、

「それは賢明な判断です」。続けて曰く

「丈夫で長持ち。メンテナンスフリー。少々乱暴に扱っても壊れません。エサさへやってあげば、ついでに缶ビールの2、3本も与えてあげば、ご機嫌で家事でもなんでもよくやりますよ。遊び好きなも一日中家に居られるのよりはましでしょ」。

さらに加えて

「掃除機や洗濯機を見た目で買う女性（ひと）はいません。少し陰ある男性、芥川や太宰のような男性がいいなんていうのは少女趣味というものです。日々一緒に暮らすのだから、軽くて面白くて手間のかからないのが一番です」。

後期高齢者の仲間入りをする頃になって、やっともてました。ナオちゃんよかったね。

そうそう敬老会の時、ナオちゃんは少々認知気味

の90歳のお婆ちゃんの身内から、お婆ちゃんとデューツトを頼まれました。『浪速恋時雨』です。

もう数年前だから、もしご健在なら百をとくに超えておられるはずの京都出身の女性。その当時は98歳で、デーサービスに通われていたのですが、施設の車だと皆さんのところを廻るので、1時間くらい乗ったままなのだそうです。そこで我々の所に、その行き帰りの送迎を依頼（有料です）。専属送迎車で、ナオちゃんはその運転手。

歩行器を使っていますがさすがに歩かれます。でもちよっとした階段は無理。そこでナオちゃんが手を取って誘導します。するとお婆ちゃん

「70年以上、殿方に手を握ってもらったことないのに」と大喜び。ご本人が27歳の時、ご主人は戦死されているのです。

長生きはするものです。これからどれだけもてるようになるか???

ナオちゃん 大感激の巻

今年の4月5日、片山世話人代表、奥田事務局長をはじめ常任幹事の皆さんと一緒に、平田さんの案内で、今年秋の千里山会総会に使う予定の新会場『三菱クラブ』に行きました。

会場の部屋に入った途端、ビックリしました。部屋の豪華さはもとより、21階ですから眼下に皇居が一望できたのです。

4月7日(日)まで乾門から皇居に入り、中の桜が鑑賞できるので、皇居前広場にはまるでアリのよくな人の行列が見えました。

お正月2日の一般参賀に皇室の人々がお立ちになるのは、あそこか？ あ！あそこが武道館、確かピートルズが・・・ナオちゃんは大はしゃぎ。

双眼鏡を持ってくれば、ここから美智子妃殿下が手を振って下さったらきつとみえるだろうな！

ナオちゃんちよつと悪乗り。

その皇居の左隅に、国会議事堂が見えます。前回まで使っていたプレスセンターも素晴らしかったですね。日比谷公会堂、日比谷公園及びそこで行われていた催し物。そしてやはり左隅に国会議事堂が見えましたね。この場合、皇居の後ろにそびえるのは新宿高層ビル群。案外近いのが解ります。

ところで、その皇居の新宮殿の中で、今から50年近い前に工事を行った際に、見聞きした珍しいことについてナオちゃんの先輩が、昔を思い出して話してくれました。

但し、現在は状況も随分変わっていると思います・・・。

ある時、設計以上の降雨が続き、雨水が『新宮殿』の地下室に流れ込んだそうです。

そこで『新年参賀』などを行う建物の裏にある、

白い玉石を敷き詰めた中庭各所の雨水樹やU字溝を大型化して、そこからの雨水を中庭中央から二重橋の裏側まで布設する、直径約1mのヒューム管で流すように設計し、それに基づいた工事でした。

ではこれからナオちゃんが聞いた先輩からの珍しいお話を順次ご披露します。

* この皇居の「ある場所？」に戦時中、もしかの空襲の時に天皇・皇后両陛下他の人たちが避難される、頑強な「地下壕」が構築されたのではなにか？・・・と言う話を聞きました。

* 天皇陛下や皇后陛下、皇太子などの皇族方が『新年参賀』などに立たれる建物の裏側には、縦30m×横70mくらいの中庭があり、その両側には彼の「大久保彦左衛門」が、大切に育てた「紅梅と白梅」が、植えられていました。

* その中庭の片隅には、彼の「加藤清正」が朝鮮征伐時に持ち帰った1立方mくらいの大きさで見事な絵が鑄抜かれた「銅製壺」が、『雨水留め』として置かれていました。

* 秋になると別の場所に「銀杏」がたくさん落ちていて、それを欲張ってバケツ一杯拾い殻を割り薄皮を剥こうとして、バケツに水を入れて素手でかき回したら罰が当たったのか？両手が芋のように腫れあがり大変な目にありました！

* 宮内庁の電話交換手は、通話を申し込んだら必ず「受け承りました！」と答えられました・・・。十二単(ひとえ)でも着ておられるのか？と思いい、庁内食堂を覗きに行ったら、普通の事務服を着てラーメンをすすっておられたので、ガツカリしました！・・・

* 皇居の中には不気味な池がたくさんあり、普段は人が入って行かないので、鯉が体長1mぐらいに成長し、時々浅瀬に来て背中の苔を、野鳥に啄（ついで）んでもらうそうです。年老いて「目ヤニ」を溜めた目は、ドロ〜ンとしていたそうですが、真意のほどは？・・・

* 大きく成長した亀は、悠々と泳いでいるので、「浦島太郎」が十分乗れそうだとか？・・・

* 古い盆栽がたくさん保管されていて、江戸時代のモノが多く、「値が付けられないほど、価値のあるもの」だそうです！
例えば「徳川家光」が大事に育てた盆栽など・・・

* 各国の大使が着任したら、必ず天皇陛下に挨拶に来るそうです。その時、「乗用車または馬車」でお迎えに行くが、宮内庁が希望を聞くと、当

時は時折、今は圧倒的多数が馬車希望です。馬車の場合、馬は時にはお尻から落とし物を残していきます。それを宮内庁の職員が自転車で「箒と塵取り」を携えて後を追ひ、回収に当たっているそうです！

* 皇居の中の警備などは「皇宮警察」の管轄です。24時間警護をしていますが、深夜の「立哨（決められた位置の警護）」が一番、つらいそうです。壕があり、石積みの上にはレーザー光線が通っていて、侵入するのは不可能に近く、賊がほとんど来そうにない場所、ある間隔で昼夜「立哨」に立つのは、交代があるとはいえ、辛いですよね。周りはアベックばかりだし。

* テレビによく出てくる「正殿」（天皇陛下や皇后陛下が皇族やいろいろの人の、挨拶などを受けたりする部屋）や国賓などを招いて「晩餐会」が

催される大広間などは、各々樺（けやき）・檜（ひのき）などの樹で柱・床などが築造されていて、部屋に入ると各々の樹の「香り」が、何となくプウ〜ンとしてきました・・・

* シャンデリアからドアのノブに至るまで、全て「人間国宝級の職人さん」の、精巧な技術で作られているそうです。

* 1日100人くらいで、各所の落ち葉掃除などの奉仕をする「奉仕団」に参画出来るのは、希望者が多いので申し込み後2〜3年かかるそうです。奉仕後に「恩寵のタバコ」（菊の御紋章入り1函20本入り）下賜され、運がよければ天皇陛下の「お礼の言葉」を賜れるそうです。

正直言って、土木屋にとって大した工事ではありません。ただ、場所が場所だけに・・・
恐れ多くも・・・『菊の御門が目に入らぬか』と。さらに場所柄、貴重なものがたくさんあり、その保護や、養生には大変気を遣ったそうです。

新年参賀する広場以外の中庭では、クレーン車などの重機が使えず、レールを敷いて「人力トロッカー」で資機材を運ぶなど、古式豊かな「人力施工」が殆どで、苦勞はしたがよい勉強（経験）になったと、この工事を担当されたナオちゃん先輩は申されていました。

この工事を担当するにあたって、前もって経歴書を提出していたにも関わらず、警視庁から2名の刑事さんがやって来て、先輩の学生時代の政治活動や天皇制について、1時間ぐらい細かく尋問されたそうです。

作業員については、先輩の会社から各下請に作業

員名簿を宮内庁に提出し、それを元に警視庁から各
県警に依頼して、身元確認と言われていましたが、
結局は先輩の会社が身元保証をするということで収
まったそうです。

以上はナオちゃんのお話。ここからはナ
オちゃん本人の経験。

だってナオちゃん、昭和43年夏から同45年秋ま
で、東京地下駅（現 横須賀線と総武線が相互乗り
入れしている地下25 mにある地下駅）の建設に携わ
っていたのです。（会誌16号に書きました）

当時、時折皇太子・妃殿下が日本全国に出かけら
れていました。列車を使われる折は東京駅を使用さ
れていました。それ以前は原宿駅に専用ホームがあ
りました。

普段は閉じられている中央通路から我々の工事
堀の間を真っ直ぐに皇居へ車で帰られました。当然
その間は工事は30分ほど中止で、堀はシートで閉鎖

しました。ナオちゃんもすることがないので必ずお
車の左側で手を振っていました。何故か分かる？
美智子妃殿下は必ず左側の席だから。

ナオちゃんは建設会社を定年退職した後、その子
会社に就職し、親会社が受注した横須賀の米軍基地
内の工事現場に何度も行きました。

そこには原子力空母エンタープライズが寄港し
ていたことがあり、そのデカさにびっくりしたもの
です。この入出検査は当時の皇居の比ではなく、
厳しいものでした。何しろ、9・11以後ですからね。
作業員に対するチェックも先輩の話より、遥かに厳
しいものでした。

話があっちにこっちに と跳びましたが、この
秋の10月5日（土）の千里山会の総会・懇親会に必
ず出席してね。ナオちゃん待ってます。

完